

校歌「ゆうべの星」の 収録に参加して

～全日制在校生と共に～

てらもと いずみ
26期 寺本 和泉

7月7日(土)、曇り空に夕闇がせまる中、45年ぶりに母校の北門に入りました。門の右手に、鉄ワクの円窓をふくむ旧校舎のレンガ壁が象徴的に残され、校舎はほぼすべて建て替わっていました。

3階の音楽教室に行くと、すでに在校生(女子10名、男子6名)が待っていて、わたしたちが入って行くと「こんにちは」と、さわやかにあいさつしてくれました。音楽の佐々木先生の



校歌収録風景全日制在校生

ご配慮で、吹奏楽部の練習が終わったあと残ってもらったそうです。北辰会からの参加は女性8名、男性6名、総勢30名。理想的な人数でした。

あらかじめ先生が録音してくださったピアノ伴奏にあわせて早速練習をはじめました。



校歌収録風景

夢のような収録

わたしの横にいた先輩が感きわまって涙をぬぐわれ、つられてわたしも泣きそうでした。不思議なことに、歌っていると当時の情景がよみがえりました。新校舎の音楽教室で、昔の校歌を歌い、しかも全日制の在校生が協力してくれる・・・こんなことが実現するなんて夢のようです。歌い手の配置やマイクとの距離を変えて録音し、よい録音ができたとおもいます。写真撮影をして終わりました。帰りに「がんこ本店」で10名が楽しく語り合いました。企画、準備、参加して下さったみなさんに感謝します。

以下は当日書いた感想です。それを北辰会常任幹事の井上啓子さんが在校生の前で朗読してくださいました。

「佐々木先生、在校生のみなさん、本当にありがとうございました。一生の思い出になります。高校生の声は高校生の時代にしか出せない宝物だとおもいます。皆さん一人ひとりが充実した人生を送られますように、心からお祈りいたします」